

# 中等部便り

## 2022年度人事

部長	上野 亮
教頭	浦田 浩
宗教主任	浅原 一泰
教務委員長	津村 裕子
指導委員長	朝野 圭三
教育研究委員長	関 隆一
1年学年主任	内田 好美
2年学年主任	鈴木 明知
3年学年主任	小川 広記

[退職] 井上 有史 (教諭・国語)  
2019年4月～2022年3月

[新任] 濱口 拓輝 (技術)  
深堀 大 (数学)

切り絵  
千輝克忠先生



# 緑窓



青山学院中等部緑窓会会報  
2022年4月18日発行  
青山学院中等部緑窓会 発行人 伊藤 正道  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL / FAX : 03-3498-5387  
E-mail : ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp  
ホームページ : http://www.ryokusou.net/

## 「緑窓会の日」を振り返って

「緑窓会の日」は、1990年の第1回から始まり「原点・祝祭・継続」のもと、毎年55歳になる期が担当して30回続いてきました。毎回、多くの緑窓会員の力をお借りして、歌舞伎や舞踊をはじめ、講演会や音楽会(邦楽、洋楽)、ラグビー部関係者や中等部時代お世話になった先生方とのトークショー、映像を使ったイベントなど、それぞれの期が趣向を凝らした会が開催されています。ここに紹介する写真は、その中のほんの一部です。会員の皆さんの印象に残っているものもあると思います。その他の「緑窓会の日」のイベントについては、緑窓会ホームページの「緑窓会の日」アーカイブをご覧ください。

これからも毎年6月初旬(年によっては5月下旬)、「緑窓会の日」で皆さんと集えることを楽しみにしています。



2002年 第13回 (左から) 中村梅玉さん 市川團十郎さん 尾上松助さん 13期



2009年 第20回 高嶋ちさ子さん 35期



2011年 第22回 (左から) 坂東巳之助さん 56期 坂東三津五郎さん 22期



2017年 第28回 (左から) 吉住小しなさん、常磐津文字兵衛さん、川瀬幹比虎さん、大東優佳さん、田中カレンさん、片岡竜蔵さん、音枝輝紀さん 28期

## 「維持会費」納入のお願い及び納入方法

緑窓会は維持会費(2年分3,000円)で運営されています。会費は、期会・クラス会のためのラベル発行費、年一回の会報「緑窓」の製作・発送費、「緑窓会の日」実施費用、中等部生に運動会と中等部祭に贈る「緑窓会賞」のマフラータオル代、ジュビリーズ記念品製作費などに使われています。一人でも多くの方のご協力をお願いいたします。詳細は、ホームページをご覧ください。

今年度は2022年・2023年2年分3,000円。すべての会員の納入年です。(高校生・大学生を除く)

### 【納入方法】

①郵便振替 会報「緑窓」に同封の振込票を使用

②銀行振込 氏名の前にCで始まる会員番号(振込票に記載されています)を必ず付けてください。

銀行 ゆうちょ銀行  
店番 019  
店名 〇一九(ゼロイチキウウ)  
口座 当座  
番号 0536829  
口座名義 青山学院中等部緑窓会

注：銀行振込みの場合は、個人を特定するために、必ず、氏名の前にCで始まる会員番号を付記してください。付記されていない場合、払込みの確認が出来ない場合があります。

### ◆重要◆

#### ホームページ閲覧パスワードの設定

緑窓会「役員会」関連資料のうち、決算収支報告書、重要書類につきましては、セキュリティ強化の観点から閲覧パスワードを設けることにしました。

緑窓会ホームページの「役員会関連」から「緑窓会役員会」をクリックし、画面に従いパスワードryokusou(閲覧パスワードは共通です)を入力の上閲覧をお願いします。

#### ＜定例役員会の報告＞

2021年5月22日の定例役員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面決議とさせていただきます。2021年11月27日(土)に定例役員会が開催されました。詳細は、ホームページをご覧ください。

会長 伊藤正道 / 副会長 大石由美子・藤野健彦  
会計 小平昌邦・西本由里子  
監事 崎田克巳・平森均



## 2022年度 緑窓会行事予定

2022年  
5月28日(土) 第32回「緑窓会の日」  
9月23日(金・祝) 「グリーンフェスティバル」に参加  
10月8日(土) 運動会で「緑窓会賞」マフラータオルを贈呈  
11月5日(土) 中等部祭「ジュビリーズ記念式典」14期・24期・49期  
6日(日) 中等部祭 中等部祭グランプリに「緑窓会賞」マフラータオルを贈呈

2023年  
1月2日(月) 箱根駅伝応援  
3日(火) 箱根駅伝応援

## 緑窓会期幹事になって

いわぶち けいた  
岩瀨 啓太 (73期)

中等部3年間で得たかけがえのない仲間とお世話になった先生方への感謝の気持ちを忘れず、卒業後も中等部と73期をつなぐお手伝いを全力でさせていただきたいと思っております。よろしくお祈り致します。



たかはし  
高橋 えあり (73期)

みなさんをつなぐ緑窓会期幹事という仕事を務めることができ嬉しく思います。また、中等部で得た学び、そして大切な思い出を忘れず、かけがえのない仲間とお世話になった先生方とのつながりを全力でサポート出来ればと思います。よろしくお祈り致します。



## 第32回「緑窓会の日」 継承 ～大切にしたい日本の伝統芸能～

日時 2022年5月28日(土) 13:30～16:15 (13:00 受付開始)  
場所 青山学院中等部礼拝堂  
参加費 3,000円 (当日現金でお支払いください) 先着300名。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

### —プログラム—

第1部 礼拝 13:30～14:30 司式・説教：北川正弥(32期)  
奉献(パイプオルガン)及び奏楽：廣江理枝(32期)

休憩  
第2部 「継承～大切にしたい日本の伝統芸能～」 15:00～16:15 司会：翠英美子(32期)  
素踊り～古典への誘い～  
中村芝翫(中村幸二32期)、杵屋正園(古茂田健二32期)  
常磐津文字兵衛(鈴木淳雄28期)、常磐津兼太夫(鈴木雅雄30期) 他

【重要】 開催については、新型コロナウイルス感染拡大の状況などから中止させていただく場合があります。中止が決定した際は、直ちにホームページで告知いたしますので、確認の上ご参加ください。



## 第32回「緑窓会の日」ご挨拶

実行委員長 岡野 真吾(32期)

第32回「緑窓会の日」を2022年5月28日(土)に中等部礼拝堂にて開催いたします。

集ってどう楽しむかばかりを考えがちだった私たちに、「集えるか」という原点を突きつけられたいま、ひと時の再会や出会いを大切に積み重ねていきたいと思っております。



廣江理枝さん



中村芝翫さん



杵屋正園さん

今回は「継承～大切にしたい日本の伝統芸能～」をテーマに、洋の東西を問わず文武両道を重んじる我が中等部らしく三味線、パイプオルガンから常磐津、歌舞伎など、今も豊かに芸を繋ぐ同窓生に演舞を魅せていただきます。ぜひご参加ください。皆さまにお会いできることを、心より楽しみにしております。



岡野 真吾

## ～緑窓会の一年～ 2021年度

6月5日(土) 第31回「緑窓会の日」中止(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から)

10月30日(土) ジュビリー式典(中等部礼拝堂で開催) 13期(ダイヤモンド)、23期(ゴールデン)、48期(シルバー)の方々を表彰し、記念の盾とマフラータオルを贈呈しました。

### シルバージュビリーを受賞して

### 48期幹事 角山洋平・入江麻由子

直前まで緊急事態宣言が発令されており、直接集うことの判断に迷う中、当日はそれらを忘れさせるような澄んだ青空のもと開かれたジュビリー式典。

校舎、礼拝堂は全てが新しく、右も左も分からず戸惑いもありましたが、上野先生をはじめとする我々が中等部生だったころから活躍されている先生方や同級生との再会、また当日演奏を担ってくれた同期の中川紫音さんの奏でるパイプオルガンの演奏が、安心して「ただいま」と思える母校の雰囲気を作りだしていました。会の終了後には中川さんにオルガンについてレクチャーしてもらうこともでき、貴重な体験となりました。様々な理由で会に参加できなかった同期にもSNSを通じて会の様子を伝え、共有することもできました。

このような機会を作ってくださった緑窓会の皆さまに感謝いたします。

今回は25年後の集合となりますが、安心して「ただいま」と言い合えるよう、皆さん元気に過ごしていきましょうね。



ジュビリー式典の様子

11月6日(土) 中等部祭 リモートで開催 クラス制作の動画の中から2年B組が「特別賞」を受賞。「緑窓会賞」マフラータオルを贈呈しました。

11月13日(土) 運動会 学年優勝の1年B組、2年A組、3年D組に「緑窓会賞」マフラータオルを贈呈しました。

2022年1月2日(日)・3日(月) 箱根駅伝 それぞれの自宅のTVで応援。往路、復路とも優勝。大会新記録で2年ぶり6度目の総合優勝。

## 緑窓会室 一引越しのお知らせ



緑窓会室へはアイビーホールのこちらの入口から

緑窓会の業務は、3月29日よりアイビーホール3階で行っています。開室は、従来通り毎週火曜日で、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、13時～16時としています。緑窓会室の電話・FAX番号の変更はありません。

緑窓会では会の運営をお手伝いして下さる会員の方を募集しています。毎週来室するのが難しい方は、月1～2回でも結構です。お手伝いの主な内容は、会報「緑窓」の製作や「緑窓会の日」、「ジュビリー式典」などイベントの開催準備です。また、PCやHP作成が得意な方も大歓迎です。充実した活動を行うためにも、ぜひ皆さまのお力をお貸しください。

## 私も緑窓会員です ⑩

原 浩史さん(48期)



なぜ青学で?と言われたことも

### 原 浩史さんプロフィール

青山学院中等部、高等部を経て青山学院大学文学部史学科卒業、文学研究科博士前期課程修了後、東北大学大学院文学研究科博士後期課程に編入学。2011年より慶應義塾志木高等学校教諭。2016年に博士(文学)の学位を取得。現在、慶應義塾志木高等学校、青山学院大学、武蔵野美術大学で非常勤講師も務める。

最近の著作に「和辻哲郎の美術史研究をめぐって」(『和辻哲郎の人文学』所収、ナカニシヤ出版、2021)、「日本及び中国の仏教寺院における講堂の機能と仏像安置」(『仏教芸術』4、2020)、「広隆寺講堂阿彌陀如来坐像の願意と造立年代」(『古代寺院の芸術世界』所収、竹林舎、2019)など。

…原さんは、慶應義塾志木高等学校の先生でいらして、日本の仏像の研究を専門になさっているんですね。そもそもなぜ仏像を研究しようと思ったのですか。

中等部の頃から歴史は好きだったのですが、最初のきっかけは高等部の時、日本史で西村先生が仏像について面白く教えてくれたことだと思います。将来は日本史の教員になろうと思い、大学は文学部史学科に進学しましたが、入学前は日韓関係史を学ぼうと考えていました。ところが入学してみると、そこになぜか仏像史の先生がいて、いざ専攻を決めるといふ時、一番分らないものが仏像だったので、それをやることに決めました。私はクリスチャンではありませんが、中等部から青学に入ってキリスト教のことをずっと学んでいたため、「偶像崇拜の禁止」の方におしる馴染んでいました。だから私にとって仏像は異文化で全然分らない不思議なものだったのです。

仏像の何が面白いかというと、お寺に行くと一つのお堂の中に仏像が沢山ある。拝むためなら一つで良さそうなのになぜ沢山の仏像があるのかということ、仏像は作ると願いが叶うと考えられていたからです。一つひとつの仏像に作らせた人の願いが込められている。仏像の向こう側にいる人間について考えるのが面白いのです。仏像は優しい顔をしていると思われがちですが、時代によってはわりと厳しい顔をしている。そこには作らせた人なりの理由があるはずで、その理由はなんだろう、といったことも考えます。平安時代くらいになると多少記録が残っていて、仏像を作らせた貴族が仏師(仏像を作る技術者)が造った顔にダメ出しをしたりしています。この実物は残っていないのですが、何かそこには「善し悪し」の基準があったはず。その基準はなんだろうとか。

…仏像ひとつでも話の広がりがあるんですね。

仏像を考えるためには、歴史的な背景を知らなければいけないし、仏教の教理であったり、技法のことだったり、とても知りたいこと全部を知ることにはできないのですが、でもちょっとでも分かったらいいなと思っています。

…中等部の頃のお話を伺いたいのですが。

中等部では、吹奏楽部でトランペットを吹いていました。中1の時は男子が2人で、女子ばかり。中3になるともう少し増えて、皆で合宿に行ってワイワイやるのが楽しかったです。あと、私は昔から本が好きで、読むのもですが、本が沢山ある場所が好きでした。3年間図書委員で、図書委員長もやりました。休み時間は図書館にいたことが多く、図書館の森田先生にはとてもお世話になりました。

中1の時、礼拝で敷島先生が『100万回生きた猫』という本を紹介しつつ友人が亡くなった話をされ、壇上で泣かれたことがあって、それがとても印象に残っています。当時、礼拝の説教はただ何となく聞いていましたが、今考えれば、先生方が日頃何を考えているかが分かる貴重な機会だったと思います。讃美歌を歌うのも好きでした。

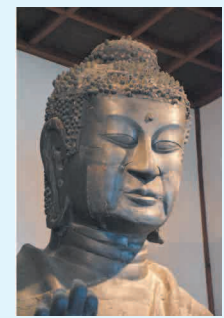
…一口で仏像の魅力とは。

時空の違う人たちのことを知ることができるもの。千年前の仏像なら、千年前の人だけでなく、千年間大事にしてきた人たちのことを知る手がかりにもなります。日本は本当によく仏像が残っていて、朝鮮半島や中国にはもっと古いものが沢山あったはずですが、政治的な転変で失われてしまいました。こんなに古いものが残っている国は珍しいので、日本の仏像とそれを作らせた人間について考えることは、日本だけでなく他の地域を考える手がかりになる、人類全体の美術史研究に寄与するのだと、東北大の恩師は言っていました。

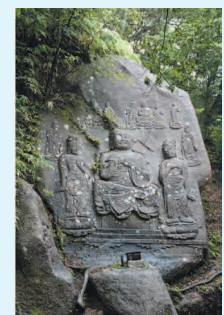
私は高校の教員なので、ふだん仏像のそばにいないわけではなく、研究を続けていくのに難しい部分もあります。でも、担任として高校生と進路の話をしたり、授業したりするのも楽しいので、仏像の研究だけに専念したいかということ、そうでもありません。仏像は面白いよ、という話をこれから多くの人にしていきたいと思っています。

[インタビュー 大石由美子(22期) 濱中浩子(20期)]

写真はいずれも武蔵野美術大学の学生たちと(コロナ禍以前)出かけた古美術研究旅行より



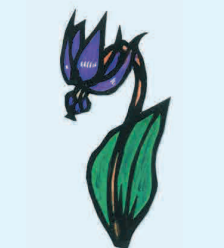
飛鳥寺の釈迦如来坐像



狛坂磨崖仏



法生寺の五重塔



切り絵 千輝克忠先生